

## O2-023

## 保育所・認定こども園における コロナ禍の感染症予防対策実施による 乳幼児期の子どもへの影響

阿久澤智恵子<sup>1</sup>、安藤 晴美<sup>2</sup>、佐野 千尋<sup>3</sup>

<sup>1</sup>京都大学大学院 医学研究科

<sup>2</sup>山梨大学大学院 総合研究部

### 【目的】

COVID-19による感染拡大を予防するための対策の実施はかつての生活様式を大きく変え、集団保育で他者と関わることにより成長・発達していく乳幼児期の子どもの生活にも大きな変化や制限をもたらした。本研究では、保育所・認定こども園の保育職員（園長・保育主任・保育士・保育教諭）が認識していた新型コロナウイルス感染症予防対策による乳幼児期の子どもへの影響を明らかにする。

### 【方法】

2023年3月～5月にA県内の認可保育所・認定こども園の勤務経験5年以上の保育職員21名に半構成的面接を行い質的帰納的に分析した。所属機関の倫理審査委員会の承認を得たうえで、口頭と文書にて参加の自由意思の尊重、個人情報保護等について説明した。

### 【結果】

保育職員が認識していた乳幼児期の子どものプラスの影響は53コード、7サブカテゴリー、5カテゴリー【感染症予防対策行動が習慣化された】【感染症予防対策行動への意識が高まった】【感染症罹患を予防できていた】【目元の表情だけで相手の気持ちを感じ取れる】【情緒が安定した子がいた】が生成された。マイナスの影響は78コード、19サブカテゴリー、6カテゴリー【情緒が安定しない場面がみられた】【コミュニケーション力の低下がみられた】

【社会性の発達の遅延がみられた】【澁渼とした子どもらしさがみられない】【長期間のマスク着用による戸惑いがみられた】【身体的な変調がみられた】が生成された。

### 【考察】

3年半にわたるコロナ禍の感染症予防対策の実施は、乳幼児期の子どもへの清潔行動の習慣化が促進された反面、心身への影響を与え発達を危ぶむ事象が生じていた。日常的なマスク着用のため子どもは【目元の表情だけで相手の気持ちを感じ取れる】と捉えられた一方で【コミュニケーション力の低下がみられた】【社会性の発達の遅延がみられた】など、他者と関わる力が弱くなっていることが危惧される。また【情緒が安定しない場面がみられた】や【澁渼とした子どもらしさがみられない】というような情緒的発達への影響も懸念される。今後、子どもに生じた事象と様々な要因との関連の有無について検証するとともに、成長・発達の過程にある子どもへの支援方法を検討する必要性が示唆された。本研究はR4年度山梨大学KAKEN取得推進プロジェクトの助成を受けて実施した。

## O2-024

## 保育者がマスクを外した時の 乳幼児の反応の考察

七木田方美

比治山大学 短期大学部

### 【目的】

アフターコロナとなり、保育者がマスクを外したとき、乳幼児がどのような反応をするのかについて調査し、保育者と乳幼児との信頼関係を保ちながら保育を継続するために必要な事項を明らかにすることを目的に研究を実施した。

### 【方法】

対 象：対面セミナーに参加した保育者のうち、協力依頼に同意を得られ、かつ回答のあった516名

期 間：2023年6月と7月 (COVID-19が5類感染症に位置付けられて、1～2か月後の期間)

方 法：ICTを用いたアンケート

内 容：保育者がマスクを外した時の子どもの様子を本研究の分析項目とした。乳幼児の反応は、選択肢①凝視「じっとみつめた」、②陽性感情「うれしそうにした」、③陰性感情「泣きそうになつたり怖がつたりした」、④戸惑い「キヨロキヨロした」、⑤興味「マスクを外して欲しそうにした」及びその他を選び、具体的な自由記述を求めた。

### 【結果と考察】

①18～24か月児は、7割以上が保育者がマスクを外した顔を凝視する。

②6～18か月未満児は、「陰性感情「泣きそうになつたり怖がつたりした」という回答が多くみられた。

この月齢は、安心の土台となるアタッチメント形成が重要な時期である。この月齢児が不安や恐怖を感じたとき、安心を求めて信頼する対象にしがみつく。保育者は、そのしがみつきの対象となる。しかし、マスク着用時と未着用時の保育者を同じ人とは認識しにくい。保育者は、親子が一緒にいるときにマスクを外してコミュニケーションを図り、この月齢児の精神的混乱を回避したい。

③2歳以上3歳未満児は、保育者の口元が見えることに陽性感情を表出したことから、言語獲得が著しい時期のため、日常の対話や絵本の読み聞かせ時に、マスク外して口元や表情を見せるることは重要であると考えられた。

④3歳以上児の前でマスクを外す際は、精神機能の発達の個人差への配慮を必要とするが、一般的には特に気遣うことはないであろうと考えられた。

⑤「担当制」および「緩やかな担当制」による発達の専門知識を持った保育者による継続的で適切な乳幼児への関わりが、より一層必要であると考えられた。